第31回
新潟哲学思想セミナー

Niigata
Philosophy
Seminar

〈その後〉の普遍論争

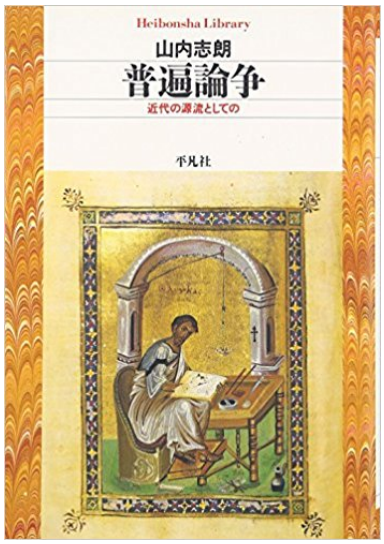
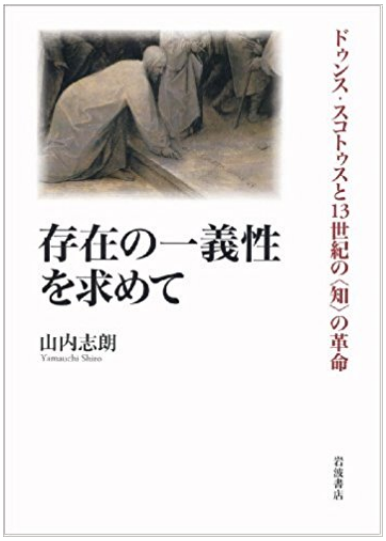
講師
山内志朗（慶應義塾大学教授）

日時　7月19日（木）18:15-19:45
場所　新潟大学五十嵐キャンパス
　　総合教育研究棟
　　D棟1階大会議室

主催：新潟哲学思想セミナー
共催：新潟大学間主観的感性論研究推進センター
お問い合わせ：宮﨑裕助（E-mail: yusuke@human.niigata-u.ac.jp)

講演会概要

中世哲学を分類する「普遍論争」については、様々に論じられてきた。普遍は事物か、名のみのものか、概念か、という分類が不適切であるという理解は浸透したが、ではどのように普遍論争を理解すべきかとなると、なかなか判然としない。

　話題提供者である私も、1992年に『普遍論争』（哲学書房）を著して以来、様々な形で普遍論争に関わり、そしていまだに中核部分にはたどり着いていない状況である。『普遍論争』の〈その後〉の話と、ドゥンス・スコトゥスとオッカムの対比という普遍論争の中心部分が、〈その後〉どのように展開していったかを交えながら話していきたい。

【山内志朗氏プロフィール】
1957年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。新潟大学人文学部教授を経て、現在は慶應義塾大学文学部教授。専門は、中世後期から近世初頭にかけての哲学と倫理学。とりわけ、人間の有限性という観点から情念論や身体論について研究している。著書に『普遍論争――近代の源流としての』（平凡社、2008年）、『存在の一義性を求めて――ドゥンス・スコトゥスと13世紀の〈知〉の革命』（岩波書店、2011年）他。